

重要文化的景観の保護推進について

当地の豊かな自然・歴史に育まれた地域景観の価値を明らかにし、後世に伝えるとともに、歴史文化を活かした地域づくりを推進する。

■普及啓発・調査事業の実施

宮津地区の追加選定に向け市民の機運醸成と、全体の整備計画のための調査事業を実施。各事業実施にあたっては有識者による検討委員会を組織し指導・助言を得る。

○宮津地区の保存計画の作成

追加選定に向けて、景観形成基準や、「重要な構成要素」となる建造物等の特定を行い、選定申出に必要な保存計画の作成を行う。

○普及啓発活動

宮津地区を中心にまち歩き、フォーラム等を開催。地域の景観資源の価値付けを行うと共に、選定申出に向けた機運醸成を図る。

○整備事業に係る基礎調査等の実施

「重要な構成要素」について、建物履歴等の基礎調査を実施、修景整備事業や、選定地区全体の整備活用計画策定につなげる。

■「重要な構成要素」の修景整備事業補助

所有者等が行う「重要な構成要素」（建築物等）の修景整備事業に対し、市が事業費の一部を補助する。

○対象事業費 工事費、設計管理費

○補助率等 対象事業費の 1/2 上限 10,000 千円

○31年度予定 1件(溝尻舟屋 ※30年度実施設計)

【過去の経緯】

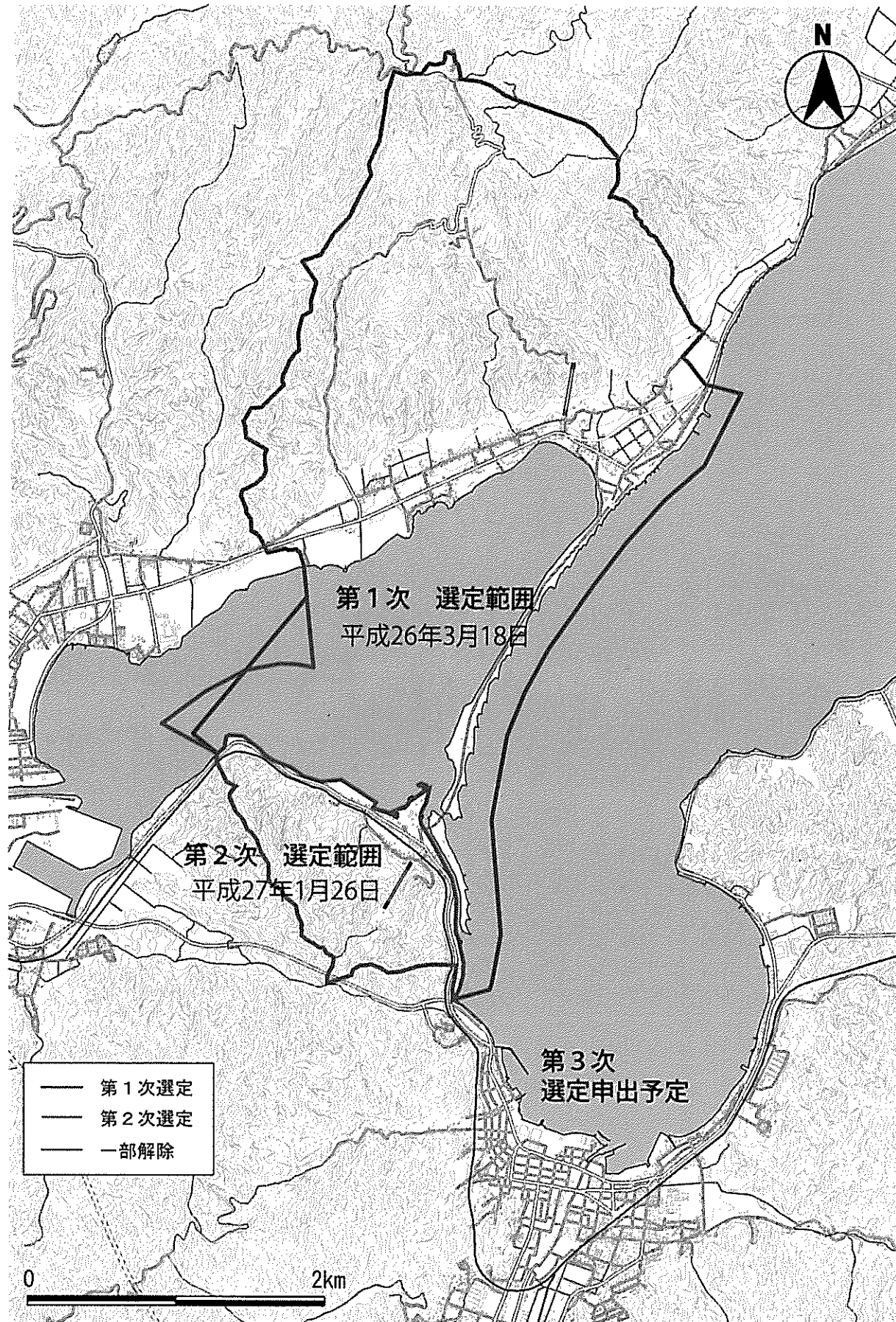
・選定経緯：H26.3、府中地区が「宮津天橋立の文化的景観」として国の選定を受ける。

H27.1、文珠地区が追加選定を受ける

・修景整備：「重要な構成要素」となった建造物等の修景整備事業を実施。

26年度(1件)・27年度(2件)・28年度(3件)

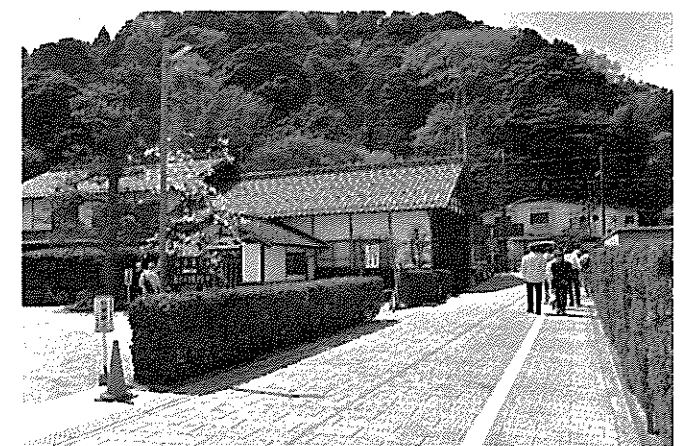
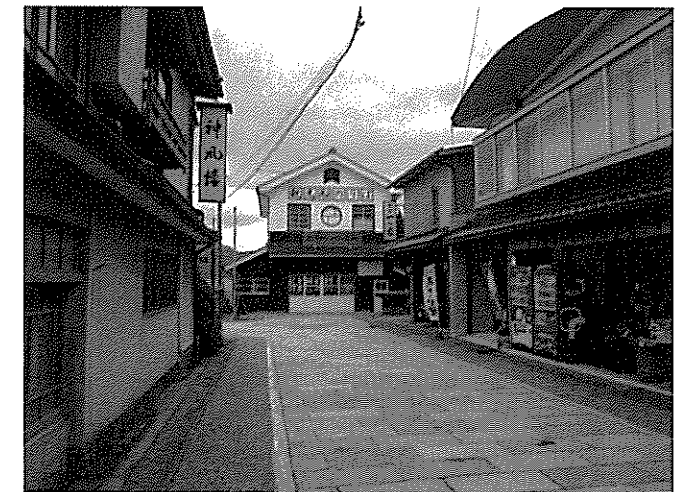
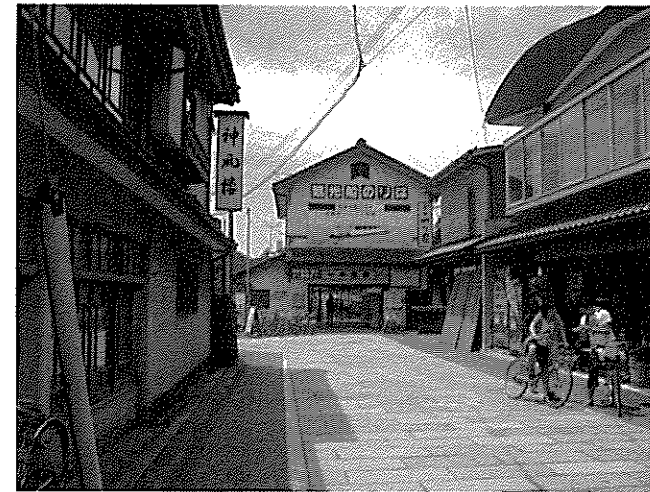
29年度(3件)・30年度(4件)



重要文化的景観「宮津天橋立の文化的景観」の選定範囲

重要文化的景観整備事業一覧

平成 26 年度	一の宮棧橋（駅舎）	丹後海陸交通株式会社
平成 27 年度	文珠公会堂	文珠自治会
	慈光寺（第 1 期）	宗教法人 慈光寺
平成 28 年度	傘松ケーブル（府中駅）	丹後海陸交通株式会社
	慈光寺（第 2 期）	宗教法人 慈光寺
	神風楼（実施設計）	有限会社 神風楼
平成 29 年度	真名井神社（第 1 期）	宗教法人 籠神社
	神風楼	有限会社 神風楼
	江尻渡船場【災害復旧】	筏組合
	玄妙庵掬翠荘（実施設計）	玄妙庵
平成 30 年度	真名井神社（第 2 期）	宗教法人 籠神社
	溝尻舟屋（実施設計）	個人
	一の宮棧橋（駅舎）【災害復旧】	丹後海陸交通株式会社
	傘松ケーブル（府中駅）【災害復旧】	丹後海陸交通株式会社



整備事業の様子（左：整備前、右：整備後）

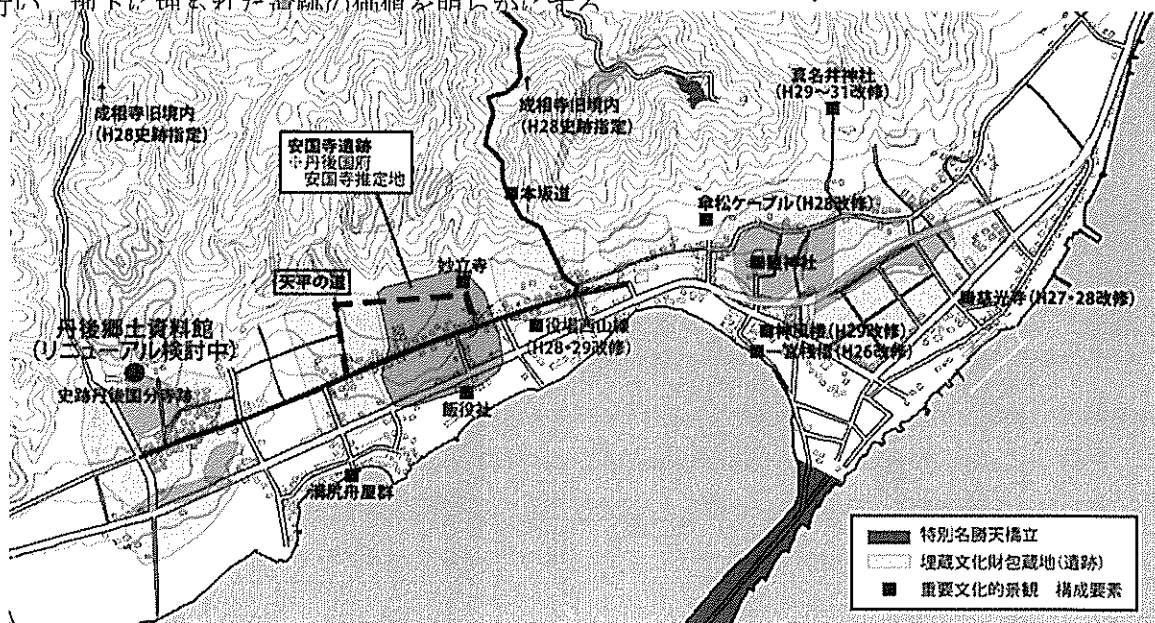
上段：一の宮棧橋 下段：文珠公会堂

市内の重要遺跡保全のための発掘調査事業について

宮津に残る優れた歴史遺産の保全活用を進めるため、市内の重要遺跡の範囲内容確認調査を継続して実施。地下に埋もれた遺跡の歴史的価値を明らかにし、保全活用のための基礎資料を作成し、今後の歴史文化を活かした地域のまちづくりにつなげていく。

■安国寺遺跡発掘調査

府中地区の中心地にある安国寺遺跡は弥生～中世の複合遺跡で、古代の丹後国府、中世では雪舟筆「天橋立図」に描かれる「安国寺」の所在推定地であるとともに古代～中世の「丹後府中」の繁栄を示す重要な遺跡である。よって内容・範囲を明らかにするための発掘調査を年次計画的に行い、地下に埋もれた遺跡の価値を明らかにする。



【過去の経緯】

市内の重要遺跡の範囲内容確認調査を年次の計画をもって実施。

- ・平成 21～27 年度 難波野遺跡（弥生～中世）・成相寺旧境内（山岳寺院）
→平成 28 年 10 月に成相寺旧境内が国指定史跡に
- ・平成 28～31 年度 安国寺遺跡（弥生～中世） →28 から 30 年度調査においては奈良～平安時代の建物跡や同時期の土器、銅銭などが多数出土しており、古代丹後国府に関わる遺跡の可能性が高まっている。

安国寺遺跡の発掘調査について

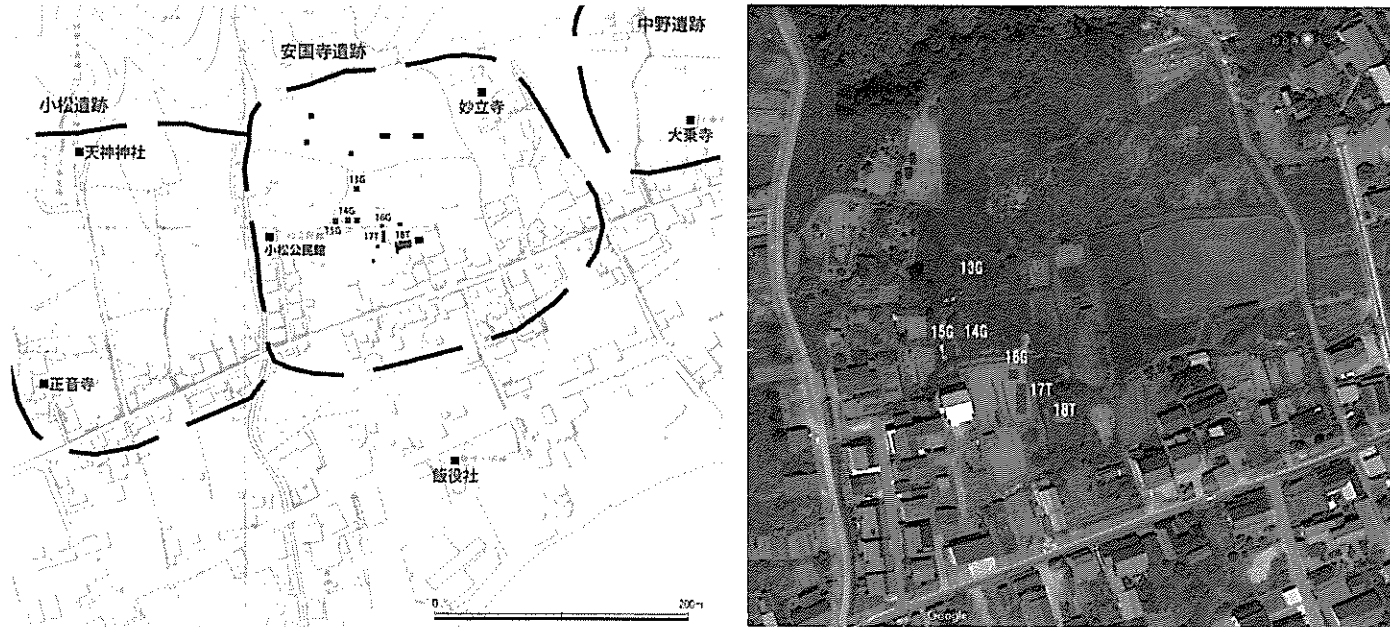
安国寺遺跡は、古代丹後国の中心地と目されている府中地区のほぼ中央、小松川によって形成された扇状地の高台に立地します。安国寺遺跡周辺に現在残る地名を見ると、寺の名前である「安国寺」「法蓮寺」「ヨナイジ」「法花堂」や、飯役社に関連する「飯役」、市場や港に関連する「二日市」「金（井）津」など、歴史的な地名がみられます。このうち「安国寺」は、国宝になっている雪舟の『天橋立図』に描かれた「十刹安国寺」に、「法蓮寺」は「諸山寶林寺」に関連すると考えられます。また、発掘調査現場から程近い妙立寺に所蔵される国重要文化財の厨子の墨書を見ると、文安3年（1446）に与内寺を改宗して妙立寺を創建したとあり、「ヨナイジ」という地名が注目されます。安国寺遺跡の発掘調査では、こうした中世寺院の遺跡を確認することが目的の一つとなります。

府中地区の道路や水田の形をみると、時期の異なる三つの地割があることがわかります。このうち、旧道に沿う、真北から22°西にずれた地割は、府中地区で発掘された平安時代後期（約800年前）の建物と方位が一致することから、少なくとも平安時代後期まで遡る可能性があります。さらに、安国寺遺跡や、隣にある中野遺跡の周辺には、ほぼ真北を向く地割がみられます。丹後国分寺跡で発掘された奈良時代（約1300年前）の溝や土塁と方位が一致することから、奈良時代まで遡る地割として注目されます。

府中地区は古代丹後国の中心地と考えられていますが、国の政治的な中心となる「国府」の位置は、発掘調査で確認されておらず、丹後の古代史を考える上で大きな謎となっています。奈良時代に遡る地割は、古代官衙の位置を推測する上で重要です。安国寺遺跡の調査では、古代の官衙遺跡の確認も目的の一つとなります。

■調査地の位置

府中地区中央に位置し、周辺には中野遺跡、小松遺跡、灘波野遺跡などがあります。



■調査の経緯と成果

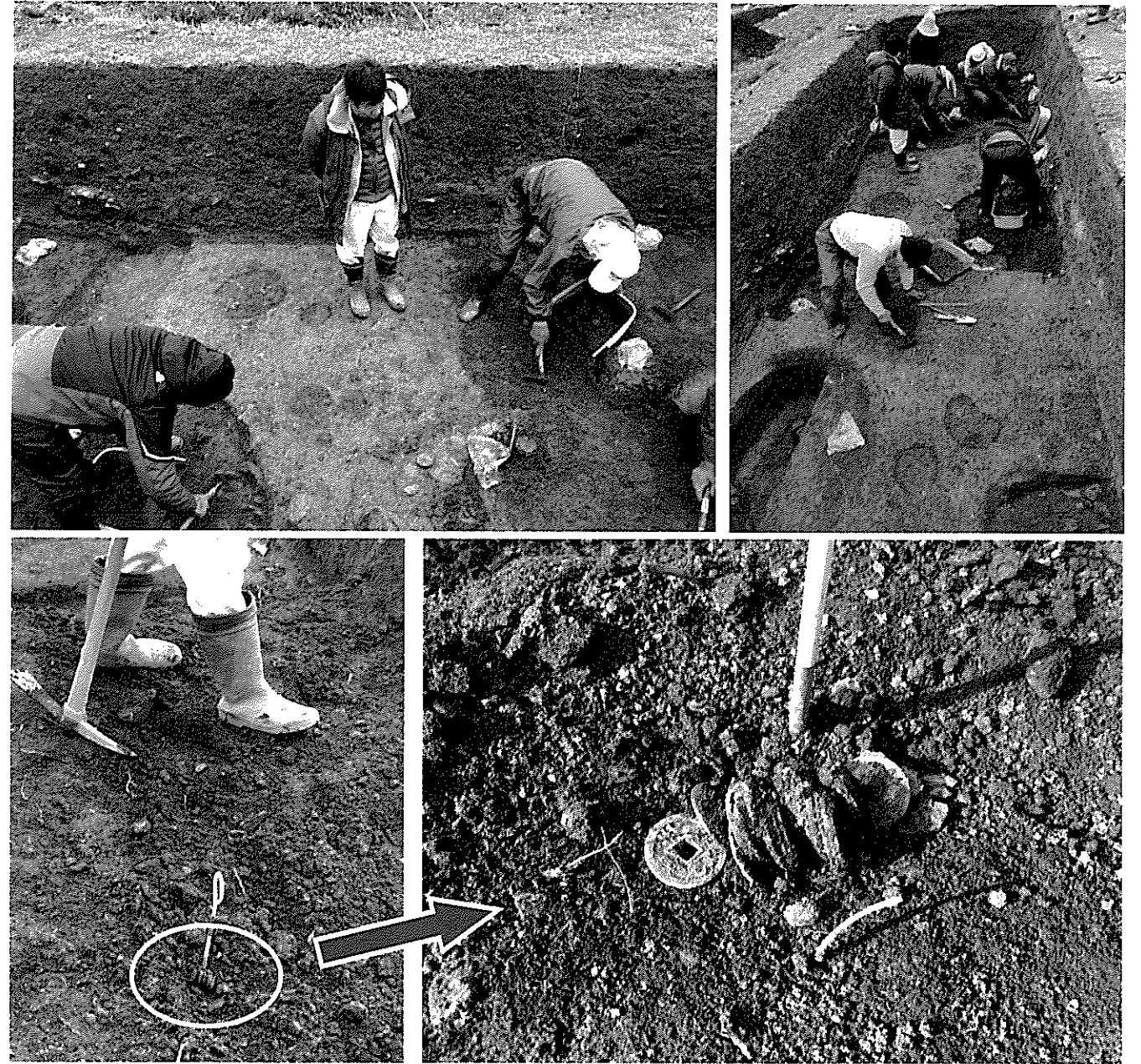
本年度までの三カ年にわたる調査で、府中の遺跡の様子がわかってきました。古代の役所跡や寺院で発見される墨書土器、銅銭といった遺物が出土したことからも、今後の調査により、丹後国中心地であった府中の様子が明らかになる可能性が高まりました。

丹後府中遺跡群、これまでの発掘

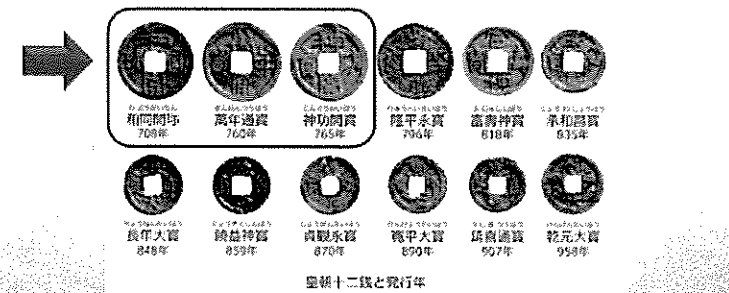
- 2016年 安国寺遺跡の範囲内容確認調査
- 2017年 中野遺跡の発掘 墨書土器の発見！
- 2018年 安国寺遺跡の発掘 銅銭の発見！

※ ご紹介しているのはいずれも、宮津市教育委員会による発掘です。

■平成30年度調査の様子

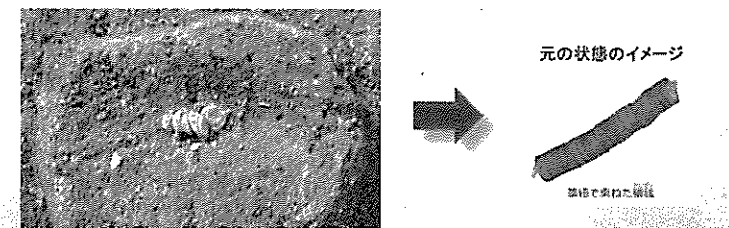


安国寺遺跡で見つかった銅銭は、この三種類だ！



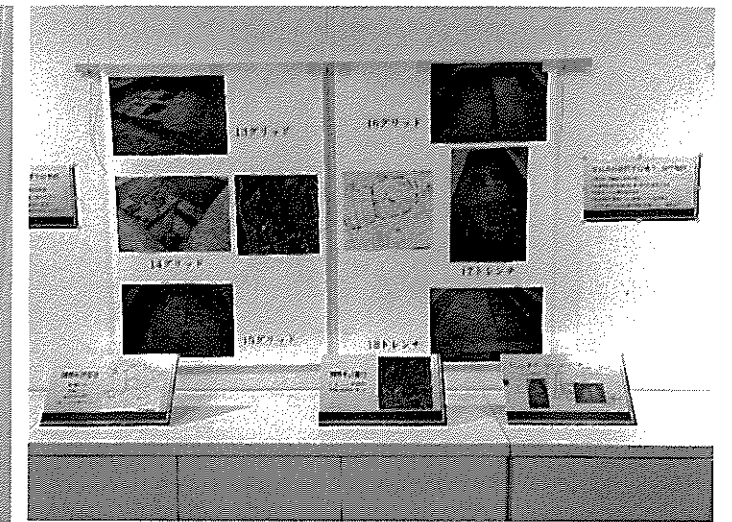
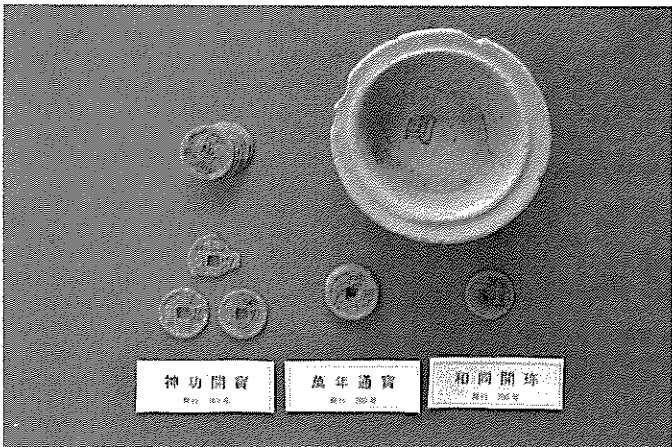
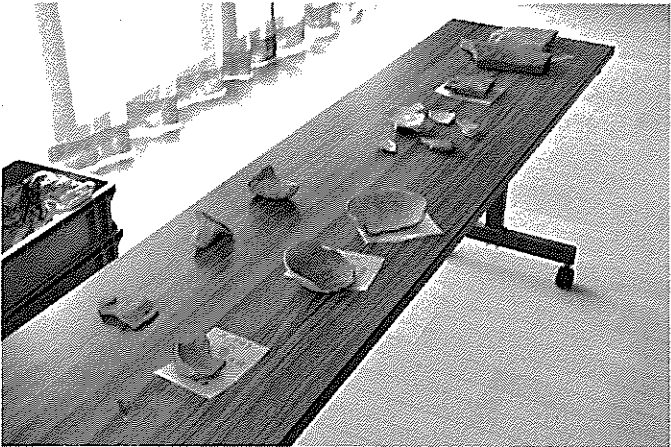
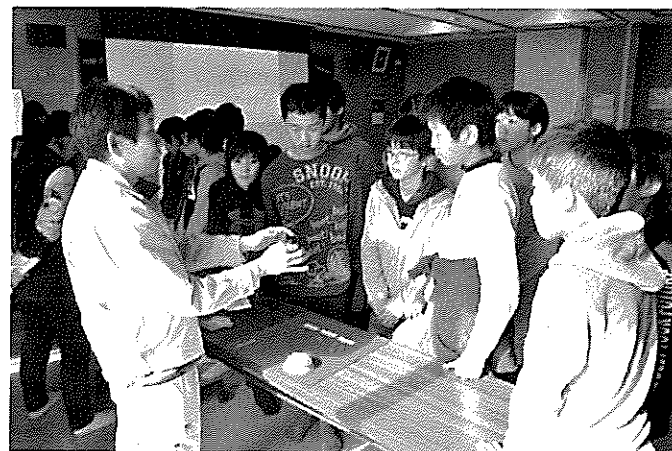
「和同開珎」「萬年通寶」「神功開寶」の三種、合計31枚の銅銭が出土しました。銅銭の出土は丹後地方で二例目、数は最多となります。

元は「束ねた状態」だったと考えられる



■現地説明会

現地調査の終了する平成30年12月、府中小学校の児童と、市民を対象に現地説明会を行いました。



【出土した土器に触ることができるコーナー】



【考古学関連図書の閲覧と、感想記入のコーナー】

■「パネル展示 安国寺遺跡の発掘」による普及啓発活動

パネル展示
安国寺遺跡の発掘

☆宮津市教育委員会 文化振興課 PRESENTS ☆

平成31年2月1日（金）～10日（日）、教育福祉総合プラザ（シーサイドマートミッブル内）3階浜町ギャラリーにおいて、発掘現場の様子やこれまでの調査成果について、写真とパネル、発掘や測量に使う道具の展示を通し、一般市民向けに紹介する企画を行いました。

歴史資料館の再開館に向けて

休館中の宮津市歴史資料館を、学術・教育・文化の中核施設という本来的役割に加え、まちなか観光や北前船寄港地の日本遺産登録の取組みなどと連携しながら、宮津の豊かな歴史文化資源を生かしたまちづくりに資する拠点施設として位置づけ、早期の再開館に向けた整備を行う。

■経緯

平成 14 年度 みやづ歴史の館 4 F に宮津市歴史資料館が開館

平成 19 年度 歴史資料館が休館となる。

平成 26 年度 休館中の活用策として特別開館制度を開始（常設展示公開）

平成 29 年度 歴史資料館の再開について検討開始（12 月補正で予算化）

○施設の現況調査業務（委託）の実施＝施設のリニューアル計画検討の資料として
→映像施設ほか故障・老朽化した施設の改修が必要

○団体との意見交換会・意見聴取

商工会議所・青年会議所・観光協会・文化財保護審議会・文化団体協議会
実践活動センター・まちなか観光アテンダント 等から聴取

→早期再開を望む声もあれば、観光集客施設としては？といった慎重論も…

平成 30 年度 特別公開、活用策検討のための実験的試みやアンケート調査を実施

○歴史資料館特別公開の実施（期間 30. 4. 28～5. 20 来館者 553 人）

・企画展示「宮津城下町と北前船」 ・コンサート「時の響き」（4/29）

・博学社連携フォーラム（5/9） ・紙芝居「北前船」（5/12）

・北前船日本遺産シンポジウム（5・17）

○特別公開期間中再開館にかかるアンケート調査を実施

→アンケート（n=48）「条件次第」も含め 95%の市民が再開館を希望。

○宮津市「財政健全化に向けた取組み（中間案）」（31 年 1 月）において

「歴史資料館再開の当面凍結」の方針提示

■今後の方向性

歴史資料館の教育施設としての意義を重視、下記のとおり位置づけ、市財政状況や周辺情勢を鑑みつつ、必要最小限の経費による早期開館を目指し調整を図っていきたい。

○資料館の位置づけ（案）

きざきビジョン「ふるさと宮津に誇りと愛着を持てるまちづくり」を踏まえ、本市の豊かな歴史文化の研究・活用・発信する施設として、以下のとおり位置づける。

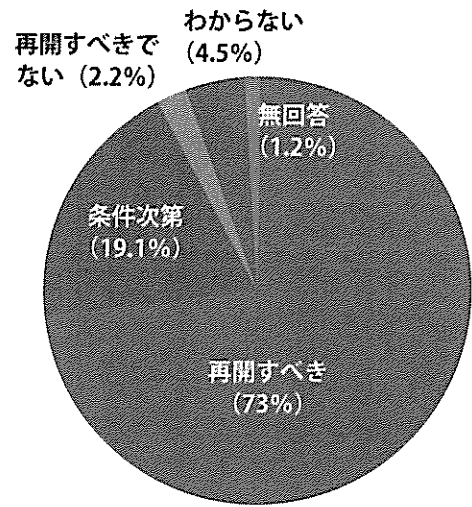
①学校教育や生涯学習の場として市民の歴史学習に資する拠点とする。

②歴史文化を生かしたまちづくりの推進のため、市民団体等が集い、情報共有や意見交換ができる場とする。

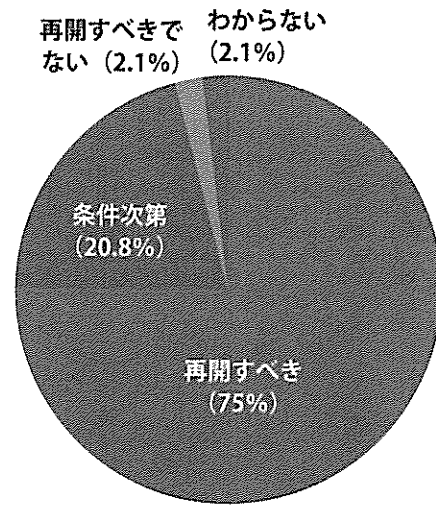
③宮津の豊かな歴史や文化財の収集・保存・調査研究・活用を図る拠点とする。

④まちなか観光と連動した、宮津の歴史文化に係るガイドランス、情報発信の場とする。

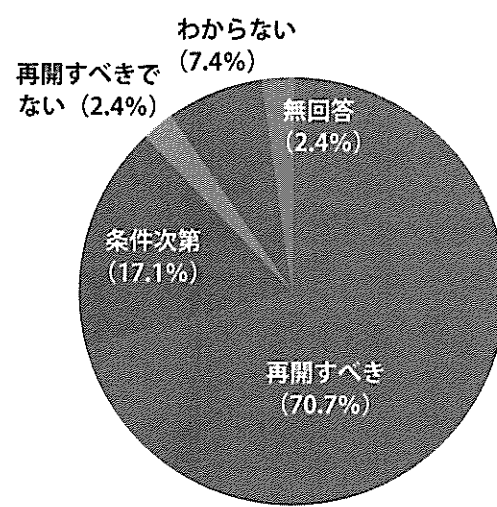
30年度特別公開時(4/28~5/20)のアンケート調査結果(抜粋)



【全体】 n=89



【市内】 n=48

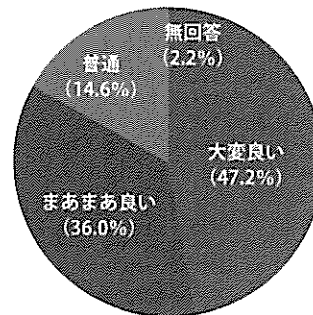


【市外】 n=41

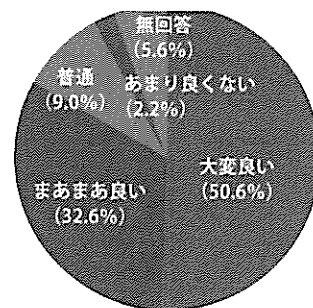
■市民(48人)の自由意見(抜粋)

○再開館すべき(75%)

- ・資料館前のエントランスロビーは、絶景で、文化・芸術・歴史と色々なイベントの可能性があるのでと思う。
- ・資料館は宮津の魅力(歴史・文化etc.)を内外にアピールするのに適した施設であると考えます。夫しだいによって観光拠点の一つとなりうるのではなからうか。
- ・天橋義塾は「府立宮津中学校」に引継がれたとありますが間違いでしょう。両校は、その生立ちと性格から相入れないと思います。引継がれた事実・根拠をご教示ください。
- ・宮津には、博物館がありません。もう少しじっくりと歴史をべんきょうする機会があってもいいのでは。資料館もよいのですが、バラバラのような気がします。一本化という意味での歴史博物館のようなものがが必要です。
- ・開館して、今回のように特別展を適した時期開催、広告宣伝をし広く深めていくこと大切。
- ・過去のことはさておき早く開館して欲しい
- ・歴史だけでなく、自然や生物、生活、文化など色々な観点で展示するとよいと思う。
- ・学習をする機会があれば良いと思います。
- ・10~13年前の時はあまり興味なかったが、宮津市内他をウォーキングしている内にすごい歴史のある街だとわかりました。



【常設展示】 n=89



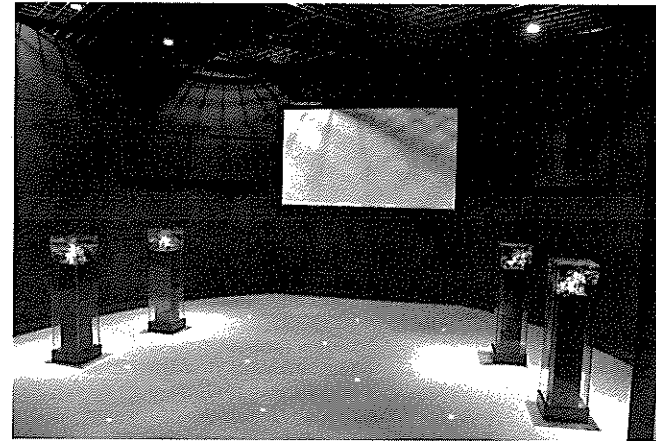
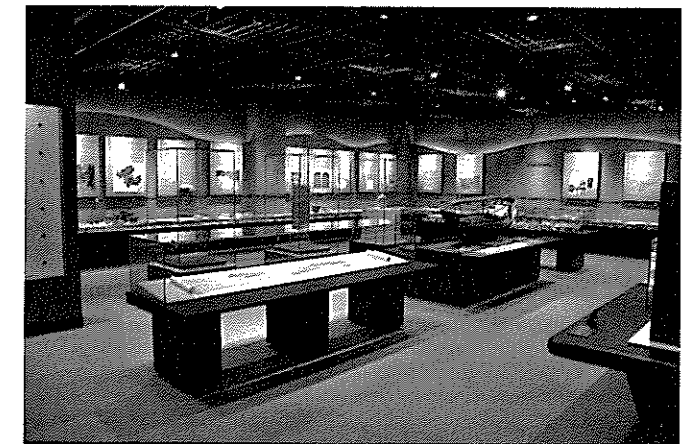
【企画展示】 n=89

○条件による(20.8%)

- ・歴史を知ることが生涯学習であると思います。子どもから大人まで関心をもつきっかけづくりも大切だと思います。
- ・今回の開館は宮津市のFBで知りました。観光協会のHPやFBにものせてもらうべき。せっかく開けているのに、来館者が少ないのは…
- ・よみがえる宮津城のCG動画はよかったです。音声ナビがあればより良いと思いました。再開館はよいと思いますが、展示の内容をかえたり、もっと資料があるなら盛り沢山で見せてほしいです。ロビーは明るく景色もよく見えるので利用すべきでは？



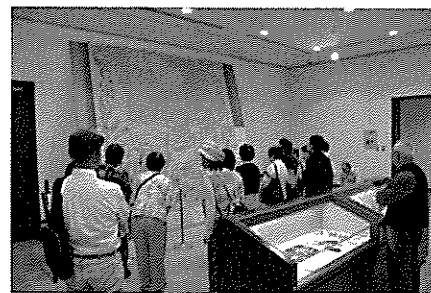
常設展示室



映像設備(天空劇場)



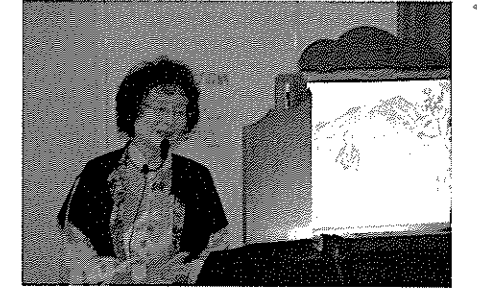
企画展示室



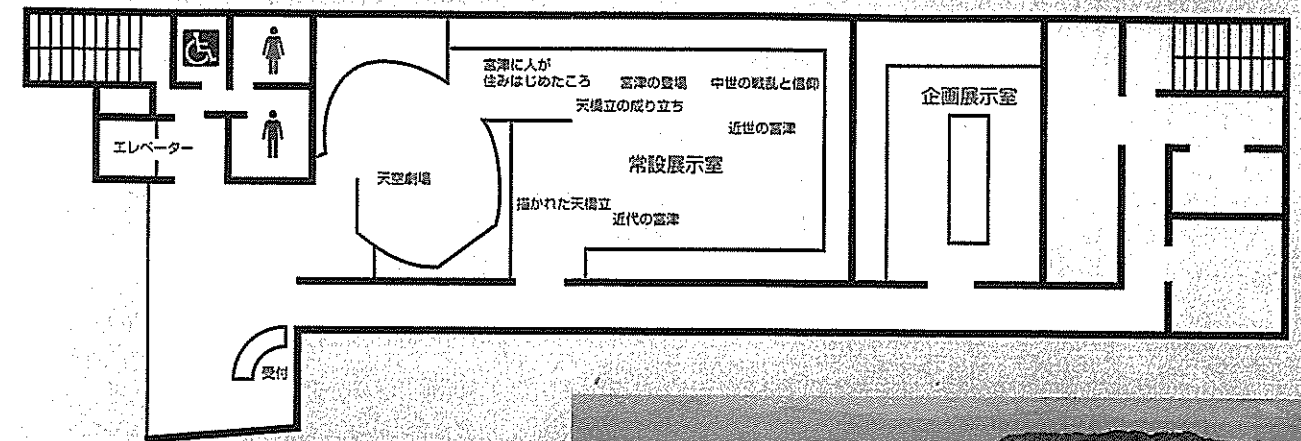
企画展示「宮津城下町と北前船」



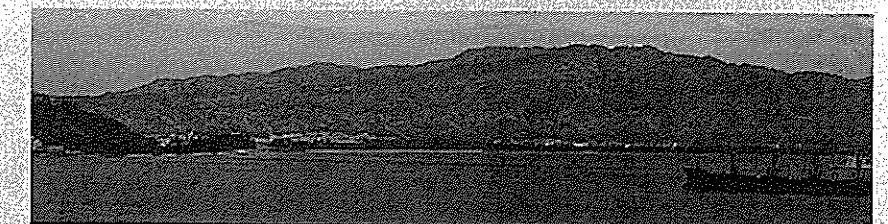
コンサート「時の響き」



紙芝居「北前船」



4階展示室平面図



4階ロビーから見る天橋立